

多世代タウンミーティング開催結果

日 時：令和7年11月30日（日）10:00～11:40

場 所：下市町交流センター

対象地区（大字）：善城、柄原、平原、梨子堂、原谷、柄本、仔邑、立石、才谷、広橋、丹生、長谷、谷、黒木、西山、貝原

参加人数：10名（地区内7名、地区外3名）

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
0名	0名	0名	0名	4名	6名

テーマ：防災について

概要：資料動画を視聴したあと、3～4人ずつのグループに分かれて南海トラフ巨大地震が発生した時を想定し、「自助」・「共助」・「公助」それぞれについて何が心配か、何ができるか、何が必要か等についてご意見をいただきました。

いただいた主な意見

自助について

- ・水、食料等の備蓄について（60代、70代）
- ・ラジオの準備（60代）
- ・備蓄品の期限について（60代、70代）
- ・発電機の設置（70代）
- ・井戸水の活用（70代）
- ・山水の活用（60代、70代）
- ・家具の転倒防止（70代）
- ・高いところにものを置かない（70代）
- ・日頃からの意識づけ（60代）
- ・急傾斜地のため土砂崩れが心配（70代）
- ・中央構造体の地下直下型地震の対策が重要（70代）
- ・家族の安否確認（70代）
- ・電気を使わなくてよいストーブ等（70代）
- ・家の一部を地震に強い構造にしている（60代）
- ・感震ブレーカーの設置（60代）
- ・明るいうちの避難（60代）

共助について

- ・水、食料、毛布、発電機等の備蓄（60代）
- ・地区で簡易ベッド、トイレ等の備蓄をしている（60代）
- ・近所の助け合いが重要（70代）
- ・備蓄品の場所を分散しておく（70代）
- ・地域の実情にあわせて、災害の規模によって避難場所をかえる（70代）
- ・高齢者の方の把握（60代、70代）
- ・夜どこで寝ているか等を地区で把握しておく（70代）
- ・日頃から出かける際は班長に声掛けする（高齢者）（70代）
- ・備蓄品のリストアップ（70代）
- ・区独自の避難訓練（70代）
- ・緊急時のリスト作り（70代）
- ・災害対策本部との情報共有の仕方（60代、70代）
- ・地域から災害対策本部へ連絡しなければならない事項のリスト（60代）
- ・道路封鎖になった時のライフライン対策（70代）
- ・地区独自の防災マップ（家族構成、危険個所等を書き込む）（60代）
- ・多世代、女性を含めての話し合いで色々なアイデアができる（70代）
- ・地域の情報を消防団等で共有（60代）
- ・平日の昼、消防団の不在をどうカバーするか（60代）
- ・リタイヤした人の経験も重要（60代）
- ・台風情報が出たら避難所をあける（60代）

公助について

- ・補助金の活用（防災リュック、消火器の更新等）（70代）
- ・防災意識を高めるために町ぐるみで防災訓練の実施（70代）
- ・下市テレビで防災に役立つ動画を流してほしい（60代）
- ・AED講習会の実施（60代）
- ・防災関連の催しをしてほしい（70代）
- ・防災で必要な備品は、補助ではなく各地区に提供してほしい（60代）
- ・消防団員にドローンの講習会をして、実際に使えるようにする（70代）
- ・災害状況確認のためドローンの活用（70代）
- ・土砂崩れ対策（70代）
- ・避難所が川に近く、避難所にならない（70代）
- ・消防団が使っているような防災用無線の活用（70代）
- ・秋津荘、KITOの活用（60代）
- ・避難場所のトイレが使えない（70代）

- ・道路の寸断により孤立する可能性がある（60代）
- ・役場の若い職員で、平日の昼に消防団が不在になる地域の後方支援をできないか（60代）
- ・ポップアップテント式の簡易トイレ（60代）
- ・過去の事例を載せたハザードマップによる周知（60代）
- ・雨量計の設置（60代）
- ・地震ブレーカーの設置補助（60代）
- ・物品業者との協定（60代）
- ・住民への意識づけをしてからタウンミーティングをしてはどうか（60代）